

科目名	福祉とコミュニケーション				担当	多田 幸子		
形態	講義	単位数	2	開講時期	1年後期	実務経験	—	
必修	—				ナンバリング	KC103	DPとの関連	(幼) 1 (総) 1
授業概要	ひとの間に交わされる直接的また間接的なコミュニケーションの心理学的な意味と、そのコミュニケーションを円滑化する技能と技術について解説する。またコミュニケーションスキルを維持、向上するための具体的な手立てについて演習を通して体験的に理解を促す。							
到達目標 学習成果	1. ひとをはじめ動物の間に交わされるコミュニケーションとそれらを説明する理論的枠組みを理解する。 2. コミュニケーションがひとの心身の健康、ひとのさまざまな知的営みに及ぼす効果を理解する。 3. 双方向的なコミュニケーションのための心身の構えと技術の基本を理解する。							
授業計画	回	内容						
	1	コミュニケーションとコミュニケーションスキル						
	2	コミュニケーションの発達：他者の意図を理解する力と“本心は分からない”と分かる力						
	3	コミュニケーションの動機						
	4	コミュニケーションと心の健康						
	5	ひとを含むさまざまな動物のコミュニケーション1：多様なメッセージと記号						
	6	ひとを含むさまざまな動物のコミュニケーション2：メッセージ送受の実際						
	7	ツールとコミュニケーション1：近代以前						
	8	ツールとコミュニケーション2：現代						
	9	伝える力と受け取る力を育てるワーク1：傾聴、他者の話を聞くことに関わるモラルとマナー						
	10	伝える力と受け取る力を育てるワーク2：傾聴する、傾聴されることの体験的学び						
	11	福祉的関わりとコミュニケーション1：対人援助の目標と対人援助職の責務						
	12	福祉的関わりとコミュニケーション2：職場における言語・非言語コミュニケーション						
	13	福祉的関わりとコミュニケーション3：援助場面で考える「聴く」「尋ねる」「伝える」「共有する」						
	14	コミュニケーションが成立する環境づくり：地域で活動する対人援助職						
15	授業のまとめと小試験							
評価基準	心理社会的視点からコミュニケーションの意味とともに、そのコミュニケーションを支える技術・技能を理解し、説明できる。また、コミュニケーション主体に求められる心身の構えを理解し、ワーク活動のなかで試行できる。							
評価方法	小試験 60% / ミニレポート 10% / 発問への応答等の授業への参加度 30%							
フィードバック 方法	再提出を求める提出物は、授業内で示す期日までに添削し、返却する。授業時のパフォーマンスに対しては基本的にその時間内または次週冒頭に講評を伝える。試験スコアは問い合わせがあれば個別対応する。(時期によっては伝えるまでしばらく時間を要する)							
アクティブ ラーニング	各授業回冒頭で個別、少人数で導入ワーク（認知課題、簡単な身体運動課題など）を実施する							
教科書	各回で必要な資料を講師が準備、配布する							
参考書	一例として『渡邊淳司 2020 表現する認知科学 新曜社』							
履修条件	日常での周囲の人々との関わりをふりかえり、対話の意味、また対話する自己や他者が存在する意味について考えていくこと							
授業外学習	授業内で紹介する文献の講読、視聴覚教材の鑑賞、読後・視聴後の議論を積極的に行うこと							
オフィスアワー	学生支援課の掲示板に掲示する							